令和６年度事業計画

（FC 今治高校明徳校/里山校・今治明徳中学校）

令和６年３月

FC 今治高校明徳校/里山校・今治明徳中学校

令和６年度事業計画

本計画は、「建学の精神と学園の使命」を達成するため、策定された「ビジョン」をもとに、中長期計画（令和３年度～7 年度）を策定したが、そのうえで令和６年度（単年度）に実施するべき目標を示すものである。

基本理念

今治明徳学園の建学の精神は「大学の道は、明徳を明らかにするにあり、民を新たにするにあり、至善に止まるにあり」であり、とりわけ「明徳を明らかにする（人間一人一人が生まれながらにして心の中に存在する徳を磨くこと）」という部分に精神の重心が託されている。この精神に則って、教職員と学生が共に学び合うなかで、「徳」を磨き上げ、美しく、たくましく生きていく力を昇華させること、そして時代の変化に先駆けながら、社会が求める人材を輩出し、もって社会に貢献し続けることが本学園の使命である。

取り組み目標（FC 今治高校明徳校・今治明徳中学校）

地域の生徒（児童）・保護者から選ばれる学校を目指して

FC 今治高校明徳校･今治明徳中学校が保護者から選ばれる学校になるためには、充実した学校生活（授業・部活動・学校行事等）、面倒見の良い対応、中学校・高校卒業後の進路保障などのはっきりした目標を掲げ、それぞれの目標のため一つ一つできることを地道に実践していかなければいけない。

生徒数の増加を目指すためには、中学・高校では推薦専願者を増加させることが一番確実な方法であるので、そのための対策を講じなければならない。地道ではあるが、各コースや各部活動を魅力あるものに見直し、ブラッシュアップして専願者の増加につなげることが大切である。

また、他校との競合の中で生き残り使命を達成するために本校独自、または高校生に支持されやすい教育内容や教材を設定したい。

そして、小学生、中学生が進学先の決定にあたり、この学校に行けば将来への道が開けるという「希望」が湧いて夢を描けるような効率的・魅力的な教育課程を策定しなければならない。

１．FC 今治高校明徳校の改革について

生徒数減の現状を打破するため、次の改革の各事項を令和 6 年度から実現するため確実な準備を行う。

① **校名変更**：令和 6 年度 4 月から FC 今治高校と校名を変更する。

・FC 今治高校里山校（旧矢田分校）〔旧コース 2，3 年生は矢田分校校舎で卒業まで授業〕

・FC 今治高校明徳校（旧本校）〔従来通りの、アドバンスコース・美容コース・チャレンジコースに加えて、特進コースを設置〕

② **FC 今治高校明徳校（旧本校）に特進コース設置**

高校の受験生で矢田分校の従来のような教育課程を望む生徒は、本校に設置した特進コースで授業、課外、学校行事、部活動等を行う。

③　**新寮の建設**

新コースの全国募集により学園寮が不可欠となり、令和 6 年 3 月に学園寮が完成。

里山校、明徳校、短期大学生も入寮可能。これにより、全国からの募集が可能となる。

《令和５年度の総括と令和６年度に向けて》

令和 6 年度からの校名変更もあり、魅力ある学校づくりを進めていく。

年度当初目標数８０　（入学予定者：推薦９０＋２＋一般？　　）

【①特進コース】　※従来のコースは今年度から募集停止。旧矢田分校は本校に特進クラスを設置。

（分校旧コースは令和 7 年度まで残る。ただし、形式上は里山校生徒）

年度当初目標数１０　（入学予定者：推薦５＋２＋一般？　　）

※FC 今治ユース 4 名（男子 3 名、女子 1 名）、他明徳中 1 名

昨年までも FC 今治ユース生以外は非常に少なかったのが今年は矢田分校がなくなり、本稿での特進コースとなったため、受験生にとっては評価が下がった。受験生も 150 名程度少なくなった。（昨年の矢田分校受験者 750 名＋明徳中生 70 名、今年の特進コース希望者 669 名）

※令和５年度入試では２名が学業奨学生の希望があり奨学金を支給しているが、6 年度入試は希望者がいなかった。

県立高校の募集状況を考えるとこれまでのスタンスでの生徒募集は非常に厳しいが、進学校受験が続く限りこの特進クラスのニーズは、あると思うので、何とか生徒・保護者・中学校の教員の信頼を得られるような学級経営・進路指導を徹底させたい。そのためには教科の指導力がある教員が必要である。

【②アドバンス（進学・総合）コース】年度当初目標数３８（入学予定者：推薦２３＋２＋一般？　）

陸上競技部 3 名　　柔道部 12 名　　卓球部 7 名　　FC 今治ユース３名（男子２名　女子１名）

本来であるならば、大学進学希望者のクラスで進学コースとして一クラス設けたかったが、生徒数が集まらず、就職希望生徒も一緒にしたクラスとなる。

このコースはやはり運動部・文化部が熱心に活動して県大会・四国大会等に出場することによって評価が高まっていくと思われる。

【③美容コース】年度当初目標数２０（入学予定者：推薦３１＋一般？　　）目標達成

今年はこの２年間、オープンキャンパス・入試説明会等を体験できる形にしたり、SNS 等での発信に努めたりした効果が表れたのか、30 人を超える入学予定者である。

オープンキャンパスの実施時期・実施場所・校内での成人式ファッションショーなど SNS の発信の方法等も工夫した。そして、３年生は昨年度から３月から卒業予定の希望者に「まつ毛エクステ」の資格も取れる講座を実施し、生徒にも好評である。

今年度の増加が一時的な増加か否かは不明であるが、これを継続して入学者が増えるようにするためには入学した生徒に親身になって面倒を見て、質の高い指導と教育を継続して行わなければならない。そして、卒業後の国家試験の合格率も学科試験も含めてさらにアップさせなけ得ればならない。

また、定員の２０名を大幅に超えたために施設・設備がたりず、実習教室等の増設等が必要である。

【④チャレンジコース】年度当初目標数３０（入学予定者：推薦３０＋一般？　　）目標達成

このコースは令和５年度のオープンキャンパス・入試説明会等で先生方の頑張りがあり、昨年同様 30 人を超える入学予定者である今年度は 40 名に届きそうである。在校生への丁寧かつ親身になった対応ができるかどうかが、今後の入学者増につながるとみられる。ここ 2 年間の生徒増にともない 1 年生・2 年生とも一クラスずつ増やしたいが、教員が足らず、1 年生のみ 2 クラスとする予定である。(チャレンジコースの保護者にとっては一クラスの人数が 40 名近いのが不信感となるみたい)

全国的に通信制高校が生徒数を増やしている現状を踏まえ、学校に登校することが苦手な生徒に対応したこのコースはニーズが多くあり、工夫次第で現在より生徒数を増やせる可能性がある。

そして、相談員の白石康子先生を中心に、今後一層、コースの体系化と保護者との連携を深めていく。このコースの生徒・保護者のニーズをよく考え、まずは卒業できることを第一に、次に希望する進路実現が叶うようサポートしなければならない。

令和５年度は、学校行事や公開講座等を実施し、「フラワーアート教室」や「ダンス教室」を開講し、参加しやすく、楽しい行事を増やしていった。6 年度もできるだけ登校する意欲が出るような仕組みを作りたい。

令和 6 年度からは 1 年生から一人一台端末（タブレット）を準備し（リース契約)、本格的な ICT 活用を進めていく予定である。現在チャレンジコースでリモート授業を実施しているがさらなる充実をめざす。（これは教室に入りづらい生徒用に別室や自宅で個別に受講する）

次に、コースから要望があった学習支援員を採用し、教室に入れない生徒のサポートや相談に乗れるような態勢を整えた。

また、昨年度に続き、大学進学を意識する生徒のために「スタディサプリ」での通信講座等の受講によって単位を認めていく等の工夫をする。

そして今後も継続して、チャレンジコースや中学校と連携したフリースクール等の運営開始も視野に入れて活動を協力しながら進めていきたい。

※部活動の活性化について

（スポーツ奨学生入学予定者：柔道部１２名、陸上競技部３名、卓球部 7 名）

本校のアピールポイントとして、やはり部活動の活性化は必要である。令和５年度も陸上競技部と柔道部は各種個人と柔道女子団体は夏のインターハイに出場し、世間に強くアピールすることができている。また、課題であった柔道場であるが理事会の理解で柔道場が整備され、より一層の成果が出るものと期待している。

そのために予算配分も考えながら、部活動の選択と集中をすすめて「強化指定部」は陸上競技部と柔道部に絞り、卓球部は中学校の卓球指導歴で全国大会へ何度も出場させた公立中学校元教員をの指導の下、強化を図りたい。そして、令和 6 年度の活動状況によっては強化指定部にとする。

また、部活動に対しては各種大会や遠征に対してサポートする体制も整える。

そして、入学者増の見込める部活動及びその指導者を設定することも計画している。新しく学園寮もできて部活動生徒も入寮できるため、岡田学園長の指導の下、女子サッカー部や女子駅伝部等創部を検討している。

２．FC 今治高校里山校の開始について

年度当初目標数８０　- 入学確定者２８（3月１５日現在）

令和 5 年度は 4 月の記者会見から学園長や教育者による講演、魅力的なオープンキャンパス、キャンパスツアーなどの活動を推進。推薦入試、ワークショップ型の一般入試、追加募集試験を実施した。結果、令和 6 年度は約 30 名の学生からなる第 1 期生を迎えることができた。志願者は非常に個性的で、大いに期待できる生徒たちである。本年度はこの第 1 期生と共に、里山校の理念に基づいた魅力的な学校を築いていくことを目指している。第 1 期生の学びと成長は、次年度の学生募集にとって重要な要素である。生徒たちの成長が示す実績は、再来年度以降の入学希望者の増加に直接結びつく。この成功の循環を創出し維持するために、教員一同、力を合わせて学校作りに取り組む。ただ単に学生数を増やすだけでなく、理念に沿った環境を提供し、生徒一人ひとりが自分の可能性を最大限に引き出しながら成長できる環境を整えていく。また、分校から 2、3 年生に上がる生徒たち、既存教員との融合を図っていく。

３．今治明徳中学校の改革について

年度当初目標数８１　　（入学確定者：８１　　）目標達成

「落ち着いた環境の中で、レベルの高い同級生と切磋琢磨しながらしっかりとした学力をつける。」

教育課程については、学習指導要領のしばりがあり、高校ほど独自のカリキュラムを実施できない。基本的には公立高校入学試験を見据えて教科書も公立中学校と同じものを使用しているが、英語は私立進学校の使用している教科書を使用しているため授業の内容は難しくなるが、かなりの生徒は英検２級・準２級に合格できている。そのため現在は、今治明徳中学校の一番の売りになると思われる。この指導方針は今後も続けていく予定である。

今治明徳中学校のスタンスとしては、希望する高校に合格するのが目的ではなく、入学した高校でどれだけ活躍することができるか。つまり、「次の進路に向けてつながるような学力がつけられるかということに重点を置いて指導する。」ということを強調している。

また、毎日の放課後において質問等がある生徒に対して自習できる教室と教員を配置した「授業の鉄人」制度を実施したり、テスト発表期間中の午後６時まで学校で勉強する「プロジェクトα」、社会の授業の中で実施される「ディベート」、自分が読みたくなった本をみんなにプレゼンして、どの本が読みたくなったか聞いている人が決定する大会「ビブリオバトル」、百人一首の大判で札を取り合う「大判百人一首大会」などの行事等をこれからも進化発展していきたい。

※部活動について

中学校の保護者のニーズは、あくまで学力向上が第一なので、学習活動に支障のないような形で、人間形成、体力づくりを兼ねて、生徒がある程度満足のいくような活動を保障しておかなければならない。

４．広報・生徒募集の充実

① 明徳校

本校の生徒募集は各中学校へのアプローチが中心である。特に、中学校教員との信頼関係の構築をすすめるためには、中学校側からの声に耳を傾け、修正すべき点は修正して、言えば対応してくれる高校として信頼を得るようになることが理想である。

そして、効果的な各中学校訪問の時期、回数を考えて、しかも、訪問した中学校卒業生の現在の様子等をこまめにお知らせすることも必要である。

令和４年度も中学３年生が１名しかいない島しょ部の中学校でも生徒募集で訪問し、信頼関係を構築するように努め、一般入試においても地方会場で追検査を実施する際、再度西条会場を設定し、最終的には中学校まで本校教員が出張し、現地で入試を実施した。とにかく今できることを全て行っている状況である。

また、ＦＣ今治との連携により、平成３１年度から矢田分校にＦＣ今治 U18 の生徒が入学するようになり、在籍数の４分の１くらいを占めるようになった。この生徒たちの進路指導をしっかりとサポートして信頼を得なければならない。

② 里山校

令和 5 年度は開校前ということもあり、ヒストリックキャプテンの就任発表や著名人の参加などの広報活動が中心になった。令和 6 年度は以下の点を重視して広報活動を実施予定。

- <u>全国（47 都道府県）からの生徒獲得</u>

令和 5 年度は直接訪問し、説明会やイベントを開催した地域からは入学者が獲得できている。ただ限られた人員での広報活動となり、全ての地位をカバーすることが困難であった。今年度は入試広報部を立ち上げ、組織的かつ計画的に全地域を訪問し、全国からの入学者獲得を目指す。

- <u>生徒ファースト</u>

令和 5 年度は開校前であり、具体的な授業のイメージの提供が困難であった。令和 6 年度は授業の様子や生徒の成長を中心に発信していくことで、里山校の魅力がより周知され 2 期生の生徒募集に寄与することを期待。

- <u>ホームページのリニューアル</u>

授業の様子や生徒の成長が効果的に伝わるホームページへのリニューアルを予定。また、パンフレットもリニューアル。

- <u>地元への理解の深耕</u>

令和 5 年度は地元への説明が不十分であったため、様々な軋轢が生じた。令和 6 年度は人材も増加したので、地元中学校への説明を十分に行う。入試広報部を中心に、全教職員で組織的に対応する。

- <u>SNS の活用</u>

令和 5 年度は、Instagram、X、LINE 公式アカウンの開設、また、Facebook/Instagram 広告も活用。これら SNS を活用して生徒や保護者とのコミュニケーションを強化し、学校の日々の活動やイベントを広く伝え、裾野を広げる。

③ 中学校

中学校の募集に関しては、基本的に塾中心の活動となる。公立小学校は基本的に一私立中学校の募集に積極的に協力をしてくれない。学校説明会のチラシを配っていただけるだけでもありがたいと思わなければならない。

その代わり、塾に対しては連携を密にして、塾訪問の回数を増やし、こまめに情報交換しながら協力できることは協力して、要望・改善点などの「声」を積極的に取り入れることが大切である。

※SNS の積極的活用

近年、中学高校生は毎日スマホを長時間使用している。そのため彼らは様々な情報をスマホから得ている。SNS の重要性は日増しに高まり、中学・高校共にまだまだホームページの活用も不十分であり、そのうえで SNS を使い、学校情報をリアルタイムに発信していかなければならない。紙媒体では載せることができないような関係者の生の声等をしっかりと伝えていきたい。また、本人のやる気が出たり、保護者の悩みに寄り添うような子育てのヒントになるような情報も発信していく。

５．働き方改革および教育・研修・教員の採用について

令和３年度～５年度末に本校・分校・中学校で合計１７名の退職者が出た。（非常勤は除く、事務職２名）原因は令和４年度入学生激減によるの昇給大幅減とボーナスカットである。

また、令和 3 年度 4 月に中学校に対して労働基準監督署が調査に入り、労働環境の現地監査がおこなわれた。その結果労働時間の管理徹底と残業時間の把握、残業代の支払い等の指導を受けた。

今回は中学校だけの調査であったが、本校・分校も労務管理はできていなかったので急遽整備している。現在、１年変形労働制、36 協定など組合側と調整しているが教職員が働きやすい環境にしながらも経営状況が悪くならないように工夫するところである。。

また、採用した教員の資質も向上しなければならないが、現在は体系的な新人研修・職員研修ができていないので、研修会・研究授業等を活性化しなければならない。

また、教員採用に関しては長期的な視野に立って、教科別教員の必要性を人件費等も考慮しながら効率的に進めていく。

[里山校]

令和 6 年度に向けて、新規の教員を 5 名採用。また、コーディネーター的役割を果たす事務職を 1 名採用した。教育スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、ヒストリックキャプテン講師、またスポーツ＆アートの講師たちとのスケジュール調整等、運営をサポートし、また学校の核となる「里山未来創造探究」のカリキュラム設計・運営も担当していただく予定。採用された人材の中には、20 代の女性が 3 名含まれている。これらの若い教員の経験は浅いものの、新鮮な視点とエネルギーをもたらし、既成概念にとらわれない、多様性を受け入れられる人材として期待している。一方で、非常に経験が豊富な先生も採用でき、里山校人材の確保も進んでいる。新しい教員と既存の

教員には、新しい学校のビジョンを共有し、1 期生や既存の生徒たちに最高の教育を提供するための支援体制を構築してもらうことを期待している。